



平成29年度 学校だより

# 緑 柏

長崎県立佐世保南高等学校

No. 149 平成29年8月31日発行

発行責任者 松井 裕次

校長室の窓から

## それぞれの熱い夏

校長 松井 裕次

最初に、女子バスケットボール部のインターハイ出場に当たり、準備期間の短い中で、物心両面にわたり、協力して下さった柏葉会・育友会・地域の皆様、バスケットボール部関係者の皆様、本当にありがとうございました。選手達は皆様の温かい想いを、大きな力にすることができました。また、東京柏葉会、県高体連事務局、保護者の皆様には、遠路より福島まで応援に駆けつけていただきました。心よりお礼を申し上げます。

### つなぐ想い、初出場・初勝利

福島市で開催されたインターハイに女子バスケットボール部が初出場した。様々な人びとの「想いをつなぐ」をテーマに大きな挑戦を果たすことができた。初戦の相手は山口県の徳山商工で、公立同士の対戦となった。緊張気味の出だしだったが、徐々にペースをつかみ、92対73でインターハイ初勝利を果たすことができた。全国の大舞台で伸び伸びとした佐南バスケットを見せてくれた。

続く2回戦は、優勝候補の桜花学園と対戦することができた。相手はインターハイ5連覇中（本大会は準優勝）の超高校級のチームである。全国から桜花学園に集まった優秀な選手達と同じコートでプレーできたのは大きな収穫だった。手が長い足が長いだけではない、とにかく速い。外国人選手もいる。いつもなら通るはずのパスが通らない、捕れるはずのリバウンドも届かない、強いプレッシャーからくる距離感の違いでシュートの精度が上がらない。結果的に54対93で敗退した。しかし、最後まで気迫を見せて戦い抜き、試合後半は佐南らしさの「修正力・対応力」を十二分に見せてくれた。特に、ゴール下に食い込んでからのシュート、3ポイントシュートでリードする時間帯も作ることができた。よくやりきった。全国トップレベルのプレーを間近に見ただけではなく、しっかり体感することができた。この熱い夏の経験はウインターカップ、次年度の高総体、そして後輩達につながっていくに違いない。

### みやぎ総文祭

宮城県多賀城市で開催された日本音楽部門に邦楽部が5年連続出場した。今年度は明確に全国入賞を視野に入れて練習を重ねてきた。今年度の演奏曲目「鳥のように」は大きな期待感を感じさせていた。目標としてきた東京公演こそ逃したが、肴場部長は「12人全員が互いを信じ、1番良い演奏だった。悔いはない」と振り返った。実は、修学旅行で交流している福島県立いわき総合高校の箏部7名も、いわき桜が丘高校との合同チームとして出場していた。不思議な絆を感じさせてくれる。震災から6年、東北は未だ復興の途上にあるが、高校生のエネルギーが未来へ受け継がれていくのを感じることができた。

### 吹奏楽コンクール金賞！

吹奏楽の夏の一大一番が、アルカスさせぼで開催された。吹奏楽部はこの日のために、精魂を傾けてきた。本校の出演順は2日目の1番クジ（それも2年連続…）。一般的に言えば、評価の基準をつくる演奏になるところだ。ここまでの、できない理由を考えてしまいそうになる。ところが、吹奏楽部は逆に1番クジを生かすことを考えた。当日は朝5時半に学校に集合して準備をしたという。余裕を持ってできるステージのセッティング、互いの声かけや励まし、演奏の準備だけに集中することができた。課題曲に続く、自由曲「復興」はアルカスを震わせる素晴らしい演奏だった。ハイレベルの選曲と挑戦が見事に功を奏した。

私は、コンクールのあいさつや表彰を担当している。あいさつでは、「評価は賞の色だけではない…」という話をすることになっている。何とも都合のいい話だが、今回は失念してしまった。会長という立場を忘れ、発表前から金賞の喜びに満たされていた。さらに、今年度から表彰で全文読み上げるのは1番クジだけになっていた。1番でよかった。目の前の肴場部長の涙に気がついたとき、思わず私の声も震えてしまった。

# 南東北総体

# 2017

## 女子バスケットボール部



福島での練習や会場を使って行われたモデルゲームをこなしていくにつれ、徐々にチームの士気が高まっているのを感じました。1回戦は初戦という固さがありましたが途中からリズムを掴み、自分たちのバスケットができたと思います。2回戦の桜花学園との対戦は、力の差を見せつけられました。しかし、攻め続けると決め、試合に臨めたことは良かったと思います。今回のインターハイでは、嬉しさと悔しさの両方を経験しました。もう一度全国の舞台上で嬉しさを味わい悔しさを晴らすため次の全国予選に向けて頑張っていきます。インターハイに出場するにあたり、たくさんの方から温かい応援をいただきました。さらに高みを目指して頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。

主将 中尾 涼音

## 少林寺拳法

私は、小学生の頃から少林寺拳法を習っています。今回、宮城県で行われた全国大会に出場しました。全国大会という舞台は初めてでとても緊張し、前日から心臓がばくばくしていました。本番当日、開会式で県毎に行進があり、開会式が始まりました。およそ750人の選手が出場し、お互いに技を競い合いました。女子単独演武の部になり、順番が来るまで緊張がピークに達していました。自分の番となり、はじめた瞬間、大きな声を出せました。しかし、動きが小さくいつもの練習よりスピードも遅くなってしまい、点数もあまりうまく伸びませんでした。初めての全国大会でとても良い経験ができました。来年も出場できるよう日々練習に励みます。応援ありがとうございました。

2年5組 石本 芽衣美



# みやぎ総文

# 2017

## 邦楽部

7月31日、8月1日の二日間、宮城県で開催された全国総合文化祭日本音楽部門大会に邦楽部の12名が出場しました。全国への渾身の一曲は、「鳥のように」。鳥のように大空を翔びたいという憧れをテーマに作られたこの曲に、今年こそ入賞を！という強い願いを込めて、精一杯の演奏をしてきました。12名での演奏は、全国出場団体としては少人数ですが、数の少なさを一切感じさせない迫力と、息のあった一糸乱れぬ演奏で聴衆を魅了することができました。残念ながら入賞はならなかったものの評価は「A」をいただき、仲間とともに最高の演奏ができました。

次の目標は、11月の県大会です。来年度の全国大会への切符を手に入れるべく、みんなで心一つに頑張っていきます！ たくさんの応援、本当にありがとうございました。



# 1学年・3学年 学習合宿

## 1学年

1学年では、7月25日（火）から7月29日（土）の5日間にわたって、長崎市内のホテル「矢太樓」において学習合宿を実施しました。1日約10時間に及ぶ学習に、最初は集中できていない場面も見られましたが、日を迫うごとに、集中力も高まり、勉強に正面から向き合う姿勢が感じられるようになりました。200名以上の生徒たちが一心に勉強に取り組む学習ホールの静寂、質問教室で説明に聴き入る姿からは、生徒たちの「学び」の意欲が伝わってきました。生活面でも、年度当初の宿泊体験の成果が発揮され、全般的に良好なものでした。

期間中、育友会の方々から頂いた差し入れで、英気を養うことができました。また、卒業生も激励にかけつけ、後輩たちに直接語りかけてくれました。現役大学生からのアドバイスは、学習のモチベーションを高めるのに十分なものであったと思います。勉強に向き合う姿勢、「分かる」喜び、周囲への配慮などこれからの学校生活に必要なものを多く得ることができた非常に有意義な合宿であったと思います。保護者、育友会、卒業生の皆様に心よりお礼申し上げます。



## 3学年

7月24日（月）～30日（月）の7日間長崎の矢太樓にて学習合宿を行いました。1日約10時間の学習時間には生徒たちも初日、2日目と怯んだところもありました。しかし、日を迫うごとにペースをつかみ、4日目、5日目ともなると「自分がこんなことができると思いませんでした。」「10時間が短く感じます。」などのコメントが1日の振り返りの中に散見されるようになりました。自学ばかりではなく、弱点克服講座や質問教室も開かれ、普段質問に行っていなかった生徒たちも先生方に積極的に質問に行き、疑問点を解消していました。昼食後の自学では午睡を取り入れたり、その後にストレッチをしたりなど長時間の自学に耐えうるような工夫も行いました。27日には、保護者の方の激励訪問があり、激励のお言葉や差し入れをいただき、生徒たちの意欲も高まっていきました。そして最終日には「もっと合宿が続いて欲しい。」「勉強をする自信がついた。」といった感想があり、充実した学習合宿であったことがうかがわれました。



## ○南高オープンスクール ～中学生を対象に開催～

8月8日（火）にオープンスクールを開催しました。約90名の実行委員がオープンスクール全体を運営し、オープニングでは吹奏楽部とバトン部による合同セレモニーが会場を盛り上げました。全体会では、来年度より新しくなる制服の披露が盛大に行われ、創立70周年を機に新しく生まれ変わる南高をアピールすることができました。全体会後は、模擬授業と座談会を行い、その後たくさんの中学生が部活動見学に足を運んでいました。座談会では、実行委員が南高について説明をした後、中学生や保護者からの質問に丁寧に答えながら交流を深めていました。



## ○ 平和学習 「なぜ二度も原爆が…」

被爆から72年になる今年は、全校生徒・職員で「二重被爆」を題材とした作品の視聴を行いました。「二重被爆」とは、広島・長崎に投下された原子爆弾により、二度にわたって被爆したことをいいます。2週間以内に 両市に入り被爆した二重被爆者は165名、二度の原爆に直接遭遇した二重被爆者は9名存在するといわれています。作品で取り上げられている山口彊さんの被爆体験や、その体験を詠った「人間筏」の詩は、これまで平和学習を重ねてきた中でも、非常に衝撃的でした。今回の平和学習で初めて「二重被爆者」の存在を知ることができた人も多く、二度も原爆が投下されたことの意味やその非人道性、戦争の悲惨さを再認識することができる機会となりました。また、作品の中には、原爆投下や「二重被爆」についての海外の人々の意見を取り上げている場面があり、多様な意見を知ることができたのも新鮮でした。「原爆は必要なかった」という意見がある一方、「日本にも非がある」といった意見や、「ナガサキを知らない」など、平和学習を重ねてきた我々にとっては衝撃的な意見や言動もありました。そのような海外の様子に驚きながらも、「日本国内でも、他県の人の原爆に対する認識はこのような感じなのかも…」という思いから、長崎県民として「後世に語り伝えていく義務」を再確認することができました。被爆者の方々が伝えてこられた原爆の非人道性や戦争の悲惨さを、被爆者の高齢化・減少が進むこれからの時代は我々が担っていかなければならない…。この作品を通して、その思いを全員で共有することができました。



## ○ふれあい看護体験

佐世保市内で実施されたふれあい看護体験に、本校から将来看護師になることを希望している2年生が20名参加してきました。現場の状況を知ること、より職業意識が高まったようです。

### 感想

私は先日ふれあい看護体験で初めて看護師の制服を着て、実際に看護体験することができました。「看護師の仕事は大変だ。」と言葉でしか聞いたことがありませんでしたが、今回体験することで本当の大変さを知ることができました。患者さんの体を拭いたり、食事の介助をしたりなど大変な仕事ばかりでしたが、この1日で貴重な体験ができ、様々なことを学ぶ良い機会になりました。

## 70周年記念事業

### 部活動の結果

- バスケットボール部  
第49回県北地区高等学校長崎新聞社杯  
女子 **優勝**
- 女子テニス部  
長崎県高等学校テニス選手権学年別大会（1年生大会）  
吉田奈央・占部智香ペア **準優勝**
- サッカー部  
全国高等学校サッカー選手権大会長崎県大会県北地区予選  
予選突破となり **県大会出場**
- 水泳部  
長崎県高等学校新人体育大会水泳競技  
水町匠 200バタ **2位（九州大会出場）**

### ○9月行事予定

- 3日（日） 体育祭
- 10日（日） 文化祭
- 11日（月） 文化祭振休
- 16日（土）・17日（日） 進研模試 <3年>
- 22日（金） 学校説明会（オープンスクールⅡ）  
19時より
- 28日（木） 前期期末考査 ～10月3日



3年1組  
稗園英里子

懸垂幕スローガンが出来上がりました。立派な字を書いてくれました。自櫃館の横にかかっていますので、ぜひご覧ください。